

# 体力と闘争心が創造力を生む

# 緑友

## 五十周年記念誌編集委員会より

全国印刷緑友会 広報担当 井上雅博

五十周年誌、『道程』の最初の編集委員会が開かれたのは、二〇〇七年四月四日のことだった。場所は、株式会社TONEGの3階にある会議室。参加者は、若重会長、藤田直前会長、作道さん、戸根木さん、それに小生の5人が出席。出来るだけ迅速な上梓を目指すことと、『道程』及び『道程』と同様の内容に加えて、『緑友会や印刷業界の未来に対して提言を残したい』、ということ、株式会社TONEGの加藤氏と浅野氏に、ライターとして加わっていただくことになった。

加藤氏と浅野氏には、全国印刷緑友会という組織自体の理解を進めてもらうために、中村守利先輩と、利根川政明先輩に取材をお願いした。

その上で、二十二代、二十三代会長、福田信彦様、二十四代会長代理、井下精二様、二十五代会

長 森田隆司様に、お集まりいただき、我々編集委員会と、二〇〇八年五月に、第二回編集委員会を開催した。

それぞれが、熱い思い入れを持って、会を運営してきた方々に、緑友会に対する思いの高さを改めて、感じさせて頂いた。

「表参道ヒルズ」など、多くの著名建築物で有名な建築家、安藤忠雄氏は、『体力と闘争心が創造力を生む』とおっしゃっている。

まさに、歴代会長の情熱が、全国印刷緑友会の五十周年の歴史を作ってきた原動力になってきているんだと、感じさせて頂いた。

その後、第三回編集委員会を七月に福岡で、第四回編集委員会を九月に名古屋で開催し、テーマとして、『ディスカッション』して行くことで、共通理解を深めて行った。

次に我々は、印刷技術協会(JAGAT)にお願ひして、客観的に印刷業界を俯瞰するために、

### リレーエッセイ

## 平成20年度第2回常任幹事会報告

全国印刷緑友会  
四国ブロック担当常任  
西原孝太郎  
(愛媛印刷人青年会)



去る11月2日、愛媛県松山市にて平成20年度第2回常任幹事会が行われました。毎年ちょうどこの時期に瀬戸内海周辺の緑友会登録団体である広島・徳島・愛媛3県の親睦と勉強を兼ねた合同例会がそれぞれ持ち回りで行われているのですが、平成20年度は愛媛開催ということで常任幹事会もそれに合わせて同時開催されました。

初日は13時に集合し、まずは合同例会ということで愛媛県内の紙の町・四国中央市にある大王製紙(株)様三島工場の工場見学へとバスで移動しました。工場見学へは広島青年印刷研究会から9名、徳島一代会から4名、愛媛印刷人青年会から24名、さらに常任幹事から5名、総勢42名のご参加をいただきました。工場に到着し2班に分かれて見学しました。圧縮された古紙の塊がパレットに載って並んでいる様子に興味深く見ている方も多くいらっしゃいました。見学後の質疑応答では環境負荷軽減への取り組みについての質問なども寄せられ、充実した見学会となりました。その後松山市内に戻り、3県合同例会及び常任幹事の合同懇親会を行いました。懇親会には若重会長はじめ残りの常任幹事の皆さんも集結し、さらに愛媛からも緑友OBであり愛媛県印刷工業組合の理事長である西原先輩・同じく専務理事の藤岡先輩がかけつけてくださり、昔懐かしい話題で盛り上がりながらも次の世代に向けた先輩方の強いメッセージもあり非常に有意義な交流ができました。懇親会の途中で今年の8月29日に予定している広島大会のPRタイムもあり、同じ瀬戸内の仲間として成功させようという結束を強めました。

さて前置きが長くなりましたが、翌朝の常任幹事会では去る2月に行われた名古屋セミナーの進捗、そして5月予定の山梨総会進捗、8月の広島大会進捗についての報告がありました。最も時間をかけて議論した議題は緑友玉手箱の件でしたが、あらゆる角度から活発な意見を交わした結果、最終的に今年度は中止せざるを得ないという結論に達しました。ただし今後の継続審議をするために各グループに玉手箱についての報告書を依頼、作道次期会長体制にフィードバックするようにしました。50周年記念誌編纂の件も報告があり、依頼中の原稿についての催促がありました。編集システム「The座」へのログイン方法なども再度配布して原稿をお願いしました。

最後に、今回の3県合同例会及び第2回常任幹事会の為にたくさんの方が愛媛にお越しくださり誠にありがとうございました。各地域のイベントに緑友常任の皆様が全国から集まり激励して下さったのは地方の活性化の為に多大な貢献だったと思います。合同開催を提案して頂いた若重会長にも改めて感謝申し上げます。私自身、まだまだ緑友人生が浅く不勉強な点も多々ありますがこのような厚い人間味溢れる温かい緑友会の中で自分の人間性を高めていきたいと思っていますので今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

JAGATの考えは、基本的に通じない。そんな今だからこそ、敢えて、大胆な発想で、これからを考えてみる意味があるのかもしれない。山内亮一専務理事と小笠原治常務理事に、技術的な側面からの見方と、社会環境的、あるいは、マーケティング的な視点でのJAGATの取り組みと、その見解をお聞きすることができた。

この事業は、藤田直前会長時代に今後の緑友会の会員にとって有益な情報を提供する為に発案し、事業を行いました。現体制の常任も第1回目の玉手箱事業を評価し、緑友会会員の皆様の為にやるものと思われ、継続する事を決定致

玉手箱について一言述べさせていただきます。2年連続で緑友玉手箱の事業を実施する事が出来なかつた事をまず始めに常任幹事を代表して会員の皆様にお詫び申し上げます。

この事業は、藤田直前会長時代に今後の緑友会の会員にとって有益な情報を提供する為に発案し、事業を行いました。現体制の常任も第1回目の玉手箱事業を評価し、緑友会会員の皆様の為にやるものと思われ、継続する事を決定致

たように思える。(これが大きな問題だと思ふ。私には、関係ないと思つていたら人も多数いたように思える。)

常任幹事の中で担当者不明確であった。(常任幹事の役割分担も明確にする必要がある。)

参加費用の問題(10万円は高すぎる?)

グループで申し込みに出来ないか? 現在、企業単位の申し込みのみでグループで申し込みが出来れば費用も安価です(緑友会会員にとつて必要な事業ではなかった。(矛盾しているのですが皆さんの意見を聞く必要があるという声が多い))

と、思ひます。出来なかつた理由だけを述べても仕方ないので次年度以降玉手箱の事業を継続する必要性の有無を事業立ち上げ時の原点到りグループ長・常任幹事の皆様で本気になって考えて頂きたいと思ひます。

もし必要ということでも事業として継続して頂ければ幸いです。そこで出た方針に沿って皆様が行動しない限り事業として成功しないと、思ひます。

最後に総務担当常任として2年間、グループ長・常任幹事及び会員の皆様に大変お世話になりました。5月ごさいました。(5月の山梨総会まで任期はあります)

「目的地が見える」、それがどんなに心強いことか。

真つ暗闇だと、あと一歩で目的地に到達できる場所に居ても、そこは思はず、諦めてしまふ人もいるかもしれない。

今の時代、自らの道に灯かりを燈す努力と共に、折れない心を持ちたいものだ。そして、頂上に到達したときの感激や達成感、開放感など、気持ちのいい感覚は、自信とともに、二度と消えることのない日日は好日。

(徹熊)

## 緑友玉手箱について

全国印刷緑友会 総務担当常任  
外間政朝

全国印刷緑友会会員の皆様 こんにちは。玉手箱について一言述べさせていただきます。2年連続で緑友玉手箱の事業を実施する事が出来なかつた事をまず始めに常任幹事を代表して会員の皆様にお詫び申し上げます。

この事業は、藤田直前会長時代に今後の緑友会の会員にとって有益な情報を提供する為に発案し、事業を行いました。現体制の常任も第1回目の玉手箱事業を評価し、緑友会会員の皆様の為にやるものと思われ、継続する事を決定致

玉手箱について一言述べさせていただきます。2年連続で緑友玉手箱の事業を実施する事が出来なかつた事をまず始めに常任幹事を代表して会員の皆様にお詫び申し上げます。

この事業は、藤田直前会長時代に今後の緑友会の会員にとって有益な情報を提供する為に発案し、事業を行いました。現体制の常任も第1回目の玉手箱事業を評価し、緑友会会員の皆様の為にやるものと思われ、継続する事を決定致

胸突き八丁  
大辞泉によると、1、富士登山で頂上までの8丁(約8721トル)のけわしい道。転じて、急斜面の長い坂道。2、物事を成し遂げる過程で、いちばん苦しい正念場」となっている。

個人的には、昨年、始めて富士登山に挑戦した。Y梨県に住んでいながら、今まで一度も挑戦したこと

## 編集後記